

「浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学経済学部2年 水川卓

①学習成果

最も大きな成果は学習意欲の変化です。私は社会的で積極的な性格です。クラスメイトの各国の留学生と仲良くなり、たくさん話が出来ればと思っていました。しかしその思いに関わらず、語学が壁となり話しかけることが出来なかったり、話しかけられてもまともに返事をする事が出来ませんでした。これがとにかくもどかしくて悔しくて、中国語を学び、もう1度中国に行きたいと思うようになりました。また、メンバーの1人と仲良くなり、さらにはライバルのような関係を築くことが出来ました。HSKと一緒に受ける約束もしました。切磋琢磨できる友人ができたのも大きな成果です。

また、留学に対する考え方も変わりました。元々は大学生の内に1年間の英語圏への長期留学を考えていました。しかし必ずしもそれが必要ではないと思うようになりました。今は、諸事情により長期留学が難しくなったこともあり、短期留学を何度か重ねるという方法が今の自分に最適だと考えています。夏にもう一度中国への短期留学をしようと計画しています。

②中国での経験

これまでも海外に行ったことはありましたが、外国人と日本語で交流することはありませんでした。しかし今回は日本語を話せる中国人と交流することが出来たので、普段は語学が壁となりできないようなコミュニケーションを取ることが出来ました。「中国人は△△だ。」といった国民性を表現した言葉をよく聞きますが、実際彼らと話してみると皆が個性的で、「中国人」という名で一括りにして性格を表現することに違和感を感じました。国民性は、統計的にそのような傾向があるということを示しているだけであり、個人に対して当てはめようとすると偏見や先入観になってしまうものだと感じました。

③プログラムの内容

平日午前は授業で平日午後と休日は異文化交流か自由行動（主に観光）といったプログラムでした。授業以外のほとんどの時間は日本語が喋れる中国人学生と行動を共にしました。語学留学も体験でき、かつ異文化交流もでき、さらには立派なガイドがついた観光まで出来て本当に充実した2週間でした。今後の留学について参加者に展望を与え、次のステップに大きく導けるプログラムだと思います。留学初心者にはまさに適切なプログラムでした。

④進路への影響

①でも述べましたが、諸事情と今回の経験から、元々考えていた1年間の長期留学を白紙に戻そうと思いましたが。中国と英語圏どちらにしても、その時点で自分にあったレベルの短期留学を繰り返す方が効率的でかつ他の活動と両立しやすいと考えたからです。それにより長期留学が理由で切り捨てざるを得なかった進路を視野に入れることもでき、選択肢を広げられたと感じています。また、今回のプログラムを通じて語学力をつける自信をつけることができました。自分は社会的で積極的な人間であることもあり、海外関係で特にコミュニケーションを重視するような職業に就けたらと思うようになりました。